



[記事を印刷する](#) | [ウィンドウを閉じる](#)

火星想定旅行クルーが会見、ストレス解消の秘訣は「戦闘ゲーム」

2011年 11月 9日 12:28 JST

【モスクワ 8日 ロイター】火星有人飛行を想定した模擬宇宙船での共同生活を4日に終えた男性6人が、戦闘ゲームでストレスを解消するなどして520日間を乗り切ったことを明かした。

長期間の隔離生活が人間に与える影響などを調査するための実験「MARS 500」に参加したのは、欧州、ロシア、中国出身の6人。8日の会見では、全員やせて疲れた様子だったが、ほっとした表情も見られた。

窓のない室内で宇宙飛行士用の配給食を食べ、シャワーはほとんど浴びず、常に監視カメラが稼働しているという状況について、ディエゴ・ウルディナさんは「正直に言って非常につらかった」とコメント。「出てくるときは体が震え、鼓動が高まった」と話した。

また、ロシア人の参加者らは「緊張が高まったときには早めに芽を摘むようにした」と説明。戦闘ゲーム「カウンターストライク」が怒りをしずめるのに役に立った、などと話した。

© Copyright Thomson Reuters 2011. All rights reserved. ロイターが事前に書面により承認した場合を除き、ロイター・コンテンツを再発行や再配布すること（キャッシュ、フレームまたは類似の方法による場合を含む）は、明示的に禁止されています。Reutersおよび地球をデザインしたマークは、登録商標であり、全世界のロイター・グループの商標となっています

Thomson Reuters journalists are subject to an Editorial Handbook which requires fair presentation and disclosure of relevant interests.